

令和6年度 評価調書【施策】

令和6年度評価調書（施策）

計 画 目 標	水道水の安全の確保【安全】	整理番号	1－（1）
施 策	水質管理の強化	記 載 頁	42－45
施策の目的	給水栓末端に至るまで水質管理の強化を図り、すべてのお客様がいつでもどこでも、安心して飲める安全な水道水をお届けします。		
【施策の進捗状況の判定】			
進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている			
目標を達成した取組数	概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
2	—	1	
【施策実現のための各取組内容の進捗状況】			
① 水質管理の強化	目標を達成		
② 直結給水方式への推進	目標を達成		
③ 給水装置に対する安全性の確保	目標に届かなかった		
【各取組の実施状況】			
取組内容	①水質管理の強化 〔指標：目標を達成 2(100%)〕	記載頁	（担当課）
		42	施設課
取組の概要	水質管理体制を強化するため「水質検査計画」について最新情報を反映させた計画に見直します。 また、当該計画に基づく水質検査結果等の情報をホームページを通じてお客様に提供してまいります。 さらに、水質管理の向上を図るため、厚生労働省の推奨する総合的な「水安全計画」を平成 29 年度に策定し運用を開始しました。今後は、水道の様々なリスクに対応するため必要に応じて見直しを行います。		
当年度取組目標	【水質情報の提供】 ・最新情報を反映した「水質検査計画」に更新します。 ・計画に基づく水質検査を行い、その結果を定期的にホームページで情報発信します。 ・水質異常時等の緊急時に迅速な対応が図れるように関係機関と連携し、連絡体制の強化に努めます。 【水安全計画について】 ・危害発生の予防などに努め、より一層の水質管理の向上及び発生が予想されるリスクへの対応を強化するため、適宜見直しを行います。		

	・水安全計画に基づき東金配水場に監視カメラを設置します。	
	(計画額 6,047 千円 予算額 7,730 千円 決算額 5,999 千円)	
指 標	水質検査結果の公表	進捗状況
目 標 値	毎日検査の公表 (月 1 回) 定期検査の公表 (月 1 回) 水質基準項目の公表 (年 4 回)	目標を達成
実 績	毎日検査は水質基準に適合、公表 定期検査は水質基準に適合、公表 水質基準項目は水質基準に適合、公表	
指 標	水安全計画の見直し・公表	進捗状況
目 標 値	水安全計画の見直し・公表	目標を達成
実 績	水安全計画の見直し・公表	
当年度実施状況	【水質情報の提供】 ・「水質検査計画」に基づく水質検査を行い、水質基準に適合していることを確認し、その検査結果を定期的にホームページで公表 (月 1 回) しました。また、PFOS 及び PFOA について、国の要請に基づき実施した水質検査により、基準値内であることを確認し、検査結果をホームページに公表しました。 ・水質異常時等の緊急対応が図れるよう、関係機関との情報伝達訓練を実施しました。 【水安全計画について】 ・配水場施設から蛇口までの一体管理を定めた「水安全計画」については、令和 6 年度人事異動に伴う見直しを行いました。 ・東金配水場に監視カメラを設置しました。	

要因・課題 対応策	[今後の方針] ・水質検査については、引き続き各検査結果を公表します。 また、水質異常時等の緊急時対応が円滑に行えるように日頃から準備するとともに、緊急連絡体制を再確認できるように関係機関との情報伝達訓練等を実施します。 ・「水安全計画」については、組織改編や水道システム及びリスクマネジメントに変更があった場合、適宜見直し作業を行います。他の配水場への監視カメラの設置については、引き続き検討を行います。		
取組内容	②直結給水方式への推進 [指標:目標を達成 1(100%)]	記載頁 44	(担当課) 業務課
取組の概要	貯水槽水道の利用者に対し、貯水槽の適正管理について、積極的な助言や情報提供を行ってまいります。 また、配水管から直接、水を給水することで常に安全で衛生的な水をお使いいただける「直結給水方式」への切替を促すなど普及促進に努めてまいります。		
当年度取組目標	【直結給水方式への推進】 ・お客様の給水申込に係る事前相談時において、維持管理や水質管理が容易な「直結給水方式」を推奨します。 ・貯水槽の所有者等に対して、貯水槽水道の適正管理についてホームページや広報紙で周知を行います。 (計画額 0千円 予算額 0千円 決算額 0千円)		
指 標	直結給水率	進捗状況	
目 標 値	96.40%	目標を達成	
実 績	97.17%		
当年度実施状況	【直結給水方式への推進】 ・給水申込の事前相談時に、窓口等でリーフレットを用意し直結給水方式を推奨しました。 ・貯水槽の所有者等に対して、貯水槽水道の適正管理についてホームページや広報紙で周知を行いました。		
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・直結給水方式について、リーフレットを用いて給水申込の事前相談時に推奨します。 ・貯水槽水道の所有者等に対して維持管理の必要性を周知するとともに、直結給水方式の普及促進を図ります。		

取組内容	③給水装置に対する安全性の確保 [指標:目標に届かなかった1(100%)]	記載頁 45	(担当課) 業務課
取組の概要	給水装置の安全性を確保するため、漏水や通水不良といった給水事故を防ぐ取組を行ってまいります。		
当年度取組目標	【給水装置に対する安全性の確保】 ・配水管理設情報（管路情報システム）については、管路情報の精度を向上させるためデータの更新を実施します。 ・口径 50mm 以上の給水管の取扱いについては、企業団の給水装置工事施行基準において使用材料が定められていることから、耐震管である配水用ポリエチレン管（EF 接合）、ダクタイル鋳鉄管（耐震継手）を用いて施工するよう、指定給水装置工事事業者に対し申請から完成まで、管材料の選定から施工管理について徹底した管理・指導を行います。 (計画額 0 千円 予算額 0 千円 決算額 0 千円)		
指 標	給水管の事故割合（件／1,000 件）	進捗状況	
目 標 値	2. 5 件以下	目標に届かなかった	
実 績	3. 8 件		
	(進捗状況の説明) 新規に布設する給水管（個人資産）については耐震管の採用を進めていますが、既に布設されている給水管の老朽化により、目標値を 1.3 件上回っていることから「目標に届かなかった」と評価しました。		
当年度実施状況	【給水装置に対する安全性の確保】 ・配水管理設情報（管路情報システム）のデータ更新を随時実施しました。 ・給水装置の安全性を確保するため指定給水装置工事事業者に対し申請から完成まで、管材料の選定から施工管理について徹底した管理・指導を行いました。 ・給水管（口径 50mm 以下）について、令和 7 年 4 月 1 日以降の給水装置工事申込み分から、水道給水用ポリエチレン管（PE100EF 接合）以外の申請を原則承認しないこととしたため、窓口及びホームページで周知しました。		
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・管路情報を常に最新のものに更新するとともに、令和 7 年度から水道給水用ポリエチレン管（PE100EF 接合）を採用することについて引き続き周知します。また、他事業体の動向等を確認し更なる給水管の耐震化に努めます。		

令和 6 年度評価調書（施策）

計 画 目 標	確実な給水の確保【強靱】	整理番号	2－（2）
施 策	水道施設の計画的更新と維持管理	記 載 頁	46－52
施策の目的	水道水を将来にわたって安定的に供給できるよう配水場、配水管等の水道施設を過不足なく確保し、かつ適切に維持・管理していきます。		
【施策の進捗状況の判定】			
進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている			
目標を達成した取組数	概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
3	—	1	
【施策実現のための各取組内容の進捗状況】			
① 効率的な水運用のための水道施設の整備	目標を達成		
② 配水施設の計画的更新	目標を達成		
③ 管路施設の計画的更新	目標を達成		
④ 管路の維持管理及び漏水防止対策	目標に届かなかった		
【各取組の実施状況】			
取組内容	①効率的な水運用のための水道施設の整備 〔指標：目標を達成 1(100%)〕	記載頁	(担当課) 施設課
取組の概要	将来の水需要に合わせた配水施設の統廃合や配水管のダウンサイジング等を検討・実施することで、効率的な水運用を図るとともに災害に強い水道施設を構築します。		
当年度取組目標	【効率的な水運用のための水道施設の整備】 ・配水施設の統廃合については、成東配水場を令和3年度に廃止しました。〔取組完了〕 ➤当年度削減効果額 計画 330,000千円 ・配水管のダウンサイジングを検討・実施します。 ➤当年度削減効果額 計画 12,000千円 (計画額 271,810千円 予算額 106,029千円 決算額 81,004千円)		
指 標	配水施設の統廃合・配水管のダウンサイジングの検討・実施	進捗状況	
目 標 値	配水施設の統廃合・配水管のダウンサイジングの検討・実施	目標を達成	
実 績	配水施設の統廃合・配水管のダウンサイジングの検討・実施		

当年度実施状況	【効率的な水運用のための水道施設の整備】 ・配水施設の統廃合により費用が削減されました。 ➤当年度削減効果額 実績 330,000 千円 ・配水管路の集約により費用が削減されました。 ➤当年度削減効果額 実績 15,444 千円		
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・引き続き効率的な水運用を図るため、配水管改良工事の計画にあたり、ダウンサイジングの適否を検討します。		
取組内容	②配水施設の計画的更新 〔指標：目標を達成 1(100%)〕	記載頁 47	(担当課) 施設課
取組の概要	給水区域内における配水場の全体的な効率的な水運用を検討し、配水場の計画的な整備・更新を進めていきます。		
当年度取組目標	【配水施設の改修・更新】 ・令和4年度から令和6年度までの3年間の継続工事による東金配水場場内連絡管更新工事にあわせ、老朽化した電気設備の更新工事を行います。 【配水場の耐震化】 ・「配水場施設耐震化計画」に基づき、令和4年度から令和6年度までの3年間の継続工事による東金配水場場内連絡管更新工事を行い、更なる耐震化を図ります。 (計画額 520,080 千円 予算額 917,171 千円 決算額 863,382 千円)		
指 標	配水池の耐震化率	進捗状況	
目 標 値	67.1%	目標を達成	
実 績	67.1%		
当年度実施状況	【配水施設の改修・更新】 ・令和4年度から令和6年度までの3年間の継続工事による東金配水場場内連絡管更新工事にあわせ、老朽化した電気設備の更新工事を行いました。 ➤令和6年度施工 ・現場操作盤の更新 ・監視カメラ設備の設置		

	【配水場の耐震化】 - 令和4年度から令和6年度までの3年間の継続工事による東金配水場場内連絡管更新工事を行いました。 ➤令和6年度施工 - 配水池内面補修塗装工事及び屋上防水工事 - 場内連絡管更新工事及び擁壁工事		
要因・課題 対応策	〔今後の方針〕 - 令和7年度から東金配水場場内整備工事を行います。大網配水場場内連絡管更新工事の内容、実施予定時期を検討します。 - 設備の状況や故障具合、部品の製造の有無等を確認しながら、更新計画を適宜見直していきます。		
取組内容	③管路施設の計画的更新 〔指標:目標を達成3(75%)、目標に届かなかった1(25%)〕	記載頁 49	(担当課) 施設課
取組の概要	- 基幹管路（口径 350 mm以上の配水管）について、今後想定される大規模地震等の被害を最小限に抑えるため「基幹管路配水管耐震化計画」に基づき順次耐震管に更新していきます。 - 災害時に避難所となる学校や主要病院等の重要給水施設への配水管について、震災による被害を最小限に抑えるため「重要給水施設配水管耐震化計画」に基づき、耐震化を進めていきます。 - 耐用年数を迎える老朽管について、漏水が多発する路線や赤水が発生しやすい路線等の優先度を検討した上で、布設替えを実施していきます。 - 国道横断部や軌道横断部等の特殊形態管路について、優先順位を定め計画的に耐震化を図っていきます。		
当年度取組目標	【基幹管路配水管耐震化事業】 - 基幹管路の耐震適合率が目標を達成していることから、漏水多発路線等の更新を優先することとしました。 【重要給水施設配水管耐震化事業】 - 重要給水施設配水管について耐震化工事を実施します。 ➤配水管改良工事 φ50～φ300 L=727m 【老朽管更新事業】 - 漏水や赤水が発生する老朽管について優先順位を定め更新工事を実施します。 ➤配水管改良工事 L=1,910m		

	【特殊形態管路更新事業】 ・電食調査の結果等から緊急性が低いことを確認したため、工事の実施予定時期を見直すこととしました。 (計画額 770,161 千円 予算額 1,112,837 千円 決算額 579,594 千円) (令和 7 年度への繰越予算額 470,700 千円)	
指 標	基幹管路の耐震適合率	進捗状況
目 標 値	9 8 . 4 %	目標を達成
実 績	9 8 . 4 %	
指 標	管路の耐震管率	進捗状況
目 標 値	1 4 . 3 %	目標を達成
実 績	1 6 . 1 %	
指 標	法定耐用年数超過管路率	進捗状況
目 標 値	4 5 . 4 %	目標を達成
実 績	4 4 . 1 %	
指 標	管路の更新率	進捗状況
目 標 値	0 . 5 %	目標に届かなかった
実 績	0 . 2 %	
(進捗状況の説明) 老朽管更新事業で配水管の更新を進めていますが、基幹管路耐震化事業及び重要給水施設配水管耐震化事業で見送りや中止となった工事があり、目標値を 0.3 ポイント下回っていることから「目標に届かなかった」と評価しました。		
当年度実施状況	【重要給水施設配水管耐震化事業】 ➤配水管改良工事：3 件 L=733m ➤舗装本復旧工事：5 件 A=15,794 m ² 【老朽管更新事業】 ➤配水管改良工事：5 件 L=1,186.6m ➤舗装本復旧工事：3 件 A=6,241 m ²	
要因・課題 対応策	〔今後の方針〕 ・各事業について引き続き進捗管理を行います。 ・資材高騰や人件費高騰による事業費への影響を考慮した事業計画に基づき、年間の工事予定を決定します。 ・工事の優先順位を確認し、計画的に事業を実施します。	

取組内容	④管路の維持管理及び漏水防止対策 〔指標:目標に届かなかった1(100%)〕	記載頁 52	(担当課) 施設課
取組の概要	配水管の健全性を維持し漏水事故の発生を防ぐため、定期的な保守点検や管路パトロールを実施します。		
当年度取組目標	【配水管の維持管理】 ・国道及び軌道横断部の漏水調査を専門業者により実施するとともに職員による定期的な管路パトロール及び排水栓の点検を実施し、漏水の早期発見に努めます。 ➤国道及び軌道横断部漏水調査（24 箇所） 【国道・軌道横断部等の漏水防止対策】 ・高速道路跨架橋及び水管橋等の特殊な配水管については、定期的に点検を実施し、外面塗装が劣化した水管橋については、補修塗装工事を実施します。 ➤高速道路跨架橋の点検を実施（4 箇所） ➤配水幹線水管橋の点検を実施（93 箇所） ➤水管橋補修塗装工事の実施（4 箇所） (計画額 940 千円 予算額 940 千円 決算額 869 千円)		
指 標	有収率	進捗状況	
目 標 値	9 2 . 0 %	目標に届かなかった	
実 績	8 8 . 5 %		
	(進捗状況の説明) 定期的なパトロール、迅速な漏水修理及び老朽管の優先的な更新を実施していますが、無効水量（漏水量等）が増加しており、目標値を 3.5 ポイント下回っていることから「目標に届かなかった」と評価しました。		
当年度実施状況	【配水管の維持管理】 ・国道及び軌道横断部の漏水調査を専門業者により実施するとともに職員による配水管の定期的な管路パトロール及び排水栓の点検を実施しました。また、急激な配水量の増加に対し、現地調査を実施し漏水の早期発見に努めました。 ➤国道及び軌道横断部漏水調査（20 箇所） ➤排水栓点検調査（50 箇所） ※調査で漏水がないことを確認しました。 【国道・軌道横断部等の漏水防止対策】 ・高速道路跨架橋及び水管橋等の特殊な配水管について、職員による点検を実施し、塗装の劣化した水管橋の補修塗装工事を積極的に実施しました。 ➤高速道路跨架橋の点検を実施（4 箇所）		

	➤配水幹線水管橋の点検を実施（93 箇所） ※点検で漏水がないことを確認しました。 ➤水管橋補修塗装工事の実施（13 箇所） ※内 9 箇所は職員により実施しました。
要因・課題 対応策	〔今後の方針〕 ・引き続き職員による管路パトロール及び排水栓の点検を実施するとともに、迅速に漏水を修理する体制を維持します。また、漏水多発路線の改良工事及び新たな漏水調査方法を検討します。 ・水管橋及び高速道路跨架橋については、定期的に点検します。

令和 6 年度評価調書（施策）

計 画 目 標	確実な給水の確保【強靱】	整理番号	2－（3）
施 策	総合的な危機管理	記 載 頁	53－55
施策の目的	災害等の非常時においても、ライフラインである水道を機能させるための取組を強化していきます。		
【施策の進捗状況の判定】			
進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている			
目標を達成した取組数	概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
2	—	—	
【施策実現のための各取組内容の進捗状況】			
① 災害対策計画と活動マニュアルの運用管理		目標を達成	
② 漏水事故及び災害時における復旧体制の強化 及び関係者間の連携		目標を達成	
【各取組の実施状況】			
取組内容	①災害対策計画と活動マニュアルの運用管理 〔指標：目標を達成 1(100%)〕	記載頁 53	(担当課) 総務課
取組の概要	災害対策実施計画及び活動マニュアルの的確な整備により、非常時における迅速かつ的確な応急給水・応急復旧体制の強化を図ります。		
当年度取組目標	【災害対策実施計画及び活動マニュアルの整備】 ・災害時において、災害対策実施計画及び活動マニュアルに基づく活動ができるよう令和6年度の人員配置に合わせ連絡網等を整備します。 【災害対策訓練の実施】 ・災害時においても迅速で的確な行動ができるよう、災害対策実施計画及び活動マニュアルに基づく訓練を実施します。 (計画額 0千円 予算額 0千円 決算額 0千円)		
指 標	災害対策の取組強化	進捗状況	
目 標 値	災害対策訓練の実施	目標を達成	
実 績	災害対策訓練を実施		

当年度実施状況	【災害対策実施計画及び活動マニュアルの整備】 ・ 災害対策実施計画及び活動マニュアルに基づく活動ができるように職員に周知するとともに令和6年度の人員配置に合わせ連絡網等を整備しました。 ・ 災害対策実施計画の見直しを行いました。 ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策計画を策定しました。 【災害対策訓練の実施】 ・ 情報伝達訓練（4月）及び総合的な災害対策訓練（11月）を実施しました。		
要因・課題 対応策	〔今後の方針〕 ・ 災害時においてもお客様に迅速かつ的確に水道水をお届けできるよう、引き続き、災害対策実施計画及び活動マニュアルを適宜更新するとともに、災害等を想定した実践訓練を実施します。		
取組内容	②漏水事故及び災害時における復旧体制の強化及び関係者間の連携 〔指標：目標を達成3(75%)、概ね目標を達成1(25%)〕	記載頁 54	(担当課) 総務課 施設課
取組の概要	漏水事故が発生した場合、迅速な復旧が行えるよう緊急時に備えた体制の強化を図ってまいります。 復旧体制の強化を図るとともに、資器材の円滑な供給を受けられるよう関係機関との相互協力体制を構築してまいります。		
当年度取組目標	【漏水事故の対応】 ・ 漏水事故が発生した場合、委託業者と連携を図り被害を最小限に抑えるため迅速に修理対応します。 【災害時における連携強化】 ・ 各種協定に基づく災害訓練等に参加し、関係団体との連携強化を図ります。また、老朽化した給水車1台を更新します。 ・ 災害発生時の復旧活動を迅速に行うため、協定締結事業者の募集を行います。 【災害時に必要となる緊急資材及び応急給水のための資器材確保】 ・ 災害用備蓄資材について、「水道資器材備蓄計画書」に基づき管理・補充を行います。		

	・水道水の滅菌消毒に必要となる次亜塩素酸ナトリウムについては、注入量と補給量を適正に管理します。 【災害時における拠点給水所の確保及び耐震性貯水槽等の設置】 ・飲料水兼用耐震性貯水槽について情報収集を行います。 【渇水対策について】 ・渇水対策マニュアルを適宜、更新していきます。 ・「渇水等緊急時バルブ操作計画書」に基づき管網解析シミュレーションを活用しバルブ操作について確認をします。 【停電対策について】 ・事務局及び配水場の自家発電設備については、日常点検や定期点検及び設備の維持管理の徹底と燃料の常時適量備蓄を行います。 (計画額 20,402 千円 予算額 45,281 千円 決算額 42,569 千円)	
指 標	応急給水施設密度 (箇所／1 0 0 km ²)	進捗状況
目 標 値	1 . 0 箇所／1 0 0 km ²	目標を達成
実 績	1 . 0 箇所／1 0 0 km ²	
指 標	可搬ポリタンク・ポリパック保有度(個/1, 000人)	進捗状況
目 標 値	3 5 . 2 個／1 , 0 0 0 人	目標を達成
実 績	4 0 . 4 個／1 , 0 0 0 人	
指 標	応急給水タンク保有度(m ³ /1, 000人)	進捗状況
目 標 値	0 . 1 3 7 m ³ ／1 , 0 0 0 人	概ね目標を達成
実 績	0 . 1 3 3 m ³ ／1 , 0 0 0 人	
	(進捗状況の説明) 保有する応急給水タンク容量が減少したことにより、目標値を 0.004 m ³ 下回っていますが、給水車の更新に際し、運転免許制度の変更に対応するため、車両総重量を抑える目的で、給水車タンク容量を従来より 0.3 m ³ 少ないものへと見直したことによるものであることから「概ね目標を達成」と評価しました。	
指 標	給水車保有度 (台／1, 000人)	進捗状況
目 標 値	0 . 0 1 2 台／1 , 0 0 0 人	目標を達成
実 績	0 . 0 1 3 台／1 , 0 0 0 人	
当年度実施状況	【漏水事故の対応】 ・漏水発生による緊急時の対応・修理体制については、管内を 5 地区に分け、24 時間体制で委託業者が待機し、漏水等の発生時は迅速に出動して修理対応を行いました。 【災害時における連携強化】	

	・関係団体と災害訓練等を実施しました。 ➤「千葉県内水道災害時対処要領」に基づく情報伝達訓練及び県内水道事業体間における水質事故等に係る情報伝達訓練に参加（4月） ➤大網白里市防災訓練に参加（10月） ➤日本水道協会関東地方支部情報伝達訓練に参加（11月） ➤山武管工事業協同組合との無線通信試験を毎月実施 ・老朽化した給水車1台を更新しました。 ・協定締結事業者の基本情報調査を実施し、ホームページによる募集を行いました。 ➤水道復旧活動に関する協定締結事業者：29者（2増1減） ➤資材協力に関する協定締結事業者：15者（増減なし） 【災害時に必要となる緊急資材及び応急給水のための資器材確保】 ・次亜塩素酸ナトリウムについては、注入量と補給量の調整を行い、適正な管理を行いました。 ・災害用備蓄資材について、「水道資器材備蓄計画書」に基づき適正管理を行いました。 ➤給水袋 6,000枚、応急給水タンク 15基、管・継手類等 【災害時における拠点給水所の確保及び耐震性貯水槽等の設置】 ・耐震性貯水槽を設置している市と合同で使用方法を確認しました。 【渇水対策について】 ・渇水対策マニュアルの対応について確認しました。 ・管網解析シミュレーションを使用し渇水時の水不足に対応できるよう効果的なバルブ操作について確認をしました。 【停電対策について】 ・事務局及び配水場の非常用自家発電設備については、設備の点検を適切に実施するとともに、長時間の停電に備え、燃料を適量確保しました。
要因・課題 対応策	〔今後の方針〕 ・渇水時にお客様に及ぼす影響を軽減できるよう、「渇水対策マニュアル」を適宜、更新していきます。 ・災害時においても迅速に復旧活動ができるよう、関係団体との災害訓練等を実施し連携強化を図ります。また、事務局庁舎に設置した非常用自家発電設備の維持管理を適切に行うとともに、燃料を適量確保します。 ・東金配水場場内整備工事に併せ、補給栓の設置を行い応急給水施設としての機能強化を図ります。

令和 6 年度評価調書（施策）

計 画 目 標	供給体制の持続性の確保【持続】	整理番号	3－（４）
施 策	お客様サービスの充実	記 載 頁	56－57
施策の目的	お客様サービスの充実に図るとともに水道事業全般にわたる情報をホームページ等を通じて提供し、水道に対する理解促進に努めてまいります。		

【施策の進捗状況の判定】

進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている

目標を達成した取組数	概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数
1	—	—

【施策実現のための各取組内容の進捗状況】

① お客様サービスの向上	目標を達成
--------------	-------

【各取組の実施状況】

取組内容	①お客様サービスの向上 〔指標：目標を達成 1(50%)、概ね目標を達成1(50%)〕	記載頁 56	(担当課) 業務課 施設課 企画財政課
取組の概要	お客様への迅速な対応や円滑かつ適正な業務の実施など、お客様サービスを向上するための取組を推進します。		
当年度取組目標	【お客様サービスの徹底】 - お客様サービスの向上を図るため、委託業者と定期的にミーティングを実施し、お客様への適切な対応及び適正な業務が遂行できるよう指導・監督を行います。 【料金収納取扱いの拡大】 - 新たな料金収納形態について、他の水道事業体の動向を調査していきます。 なお、口座振替の推奨は、納入期限内の収納に有効な手段であるため、継続して行います。 【山武水道のPRや水道サービスに関する情報公開等】 - ホームページや広報紙を活用し、水道事業に関する最新情報を発信するとともに、参加型広報活動の水道出前講座を行い、水道事業をPRします。また、マスコットキャラクター「さんすいちゃん」を活用して企業団の取り組みを分かりやすく説明・発信します。 - ホームページを活用し、災害時の緊急情報・断水情報を迅速に発信します。		

	・設立から50周年を迎えたので、記念誌を取りまとめ、刊行します。	
	(計画額 132,721 千円 予算額 141,020 千円 決算額 138,787 千円)	
指 標	口座振替割合・自主納付割合	進捗状況
目 標 値	70.0% ・ 30.0%	概ね目標を達成
実 績	68.2% ・ 31.8%	
	(進捗状況の説明) スマートフォン決済開始等により納入通知書の支払いが増加しており、口座振替割合は目標値を1.8ポイント下回っていますが、お客様のニーズに合わせて対応したことによるものであることから「概ね目標を達成」と評価しました。	
指 標	給水普及率	進捗状況
目 標 値	93.2%	目標を達成
実 績	93.4%	
当年度実施状況	【お客様サービスの徹底】 ・水道料金徴収業務受託者と定例ミーティング（12回）や事務処理状況の検査（2回）を実施し、業務の適切な履行の確認及び丁寧なお客様対応ができるよう指導を行いました。業務を実施する中で問題等を把握した場合は、業務課内で対応策等を協議し指導を行いました。 【料金収納取扱いの拡大】 ・県内水道事業体の料金収納形態について状況を把握しました。 ・広報山武水道（10月号・3月号）と構成市町発行の広報紙（11月号）で口座振替を推奨する記事を掲載しました。 【山武水道のPRや水道サービスに関する情報公開等】 ・水道事業全般に関する最新情報を提供するため、ホームページや広報紙の発行等による広報活動を実施しました。 ・参加型広報活動として小学4年生を対象とした水道出前講座を実施しました。 ・マスコットキャラクター「さんすいちゃん」を水道出前講座や職場見学会で配布するクリアファイルに活用しました。 ・断水情報については、チラシの配布、広報車での広報活動を実施するとともに、ホームページで大規模断水（30件以上）情報を提供しました。	

	(ホームページ) 更新件数 1 4 8 件 (アクセス件数約 41,000 件) ➤ 水道事業全般に関する情報を発信 ➤ 各種諸手続きに関する情報を発信 ➤ 断水等の緊急情報を発信 (5 回) ➤ 新型コロナウイルス感染症の取組情報を発信 (広 報 紙) 年 2 回 (発行部数 1 0 月号 : 28,550 部、3 月号 : 28,050 部) ➤ 水道事業全般にわたる情報を掲載 ➤ 1 0 月号にスマートフォン決済について、3 月号に災害への取り組みなどの記事を掲載 (水道出前講座) ➤ 管内の小学 4 年生対象 1 7 校 (7 2 3 人) ・ 編集委員会において、5 0 周年記念誌「5 0 年のあゆみ」を取りまとめ 3 月に刊行しました。
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・ 引き続き、お客様サービスの徹底に努めるとともに水道事業全般にわたる情報をホームページや広報紙等を活用し、幅広く提供していきます。 ・ 定期的なミーティング等を今後も実施し、お客様への適切な対応及び適正な業務が遂行できるよう指導・監督を行い、お客様サービスの徹底に努めます。 ・ スマートフォン決済の開始に伴い、口座振替率が更に低下することが見込まれるが、収納コスト軽減に努めるため口座振替の推進は継続していきます。 ・ 他の水道事業体の動向を踏まえ、新たな料金収納形態について、検討を行っていきます。 ・ 令和 7 年度にホームページのリニューアルを実施します。 (令和 8 年度から新ホームページを適用予定)

令和 6 年度評価調書（施策）

計 画 目 標	供給体制の持続性の確保【持続】		整理番号	3－（５）
施 策	経営の健全化及び効率化		記 載 頁	58－62
施策の目的	水道事業を取り巻く経営環境は大きく変化し、厳しさが増していることから、経営の健全化及び効率化を推進し、将来にわたり持続可能な水道事業を目指します。			
【施策の進捗状況の判定】				
進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている				
目標を達成した取組数		概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
5		—	—	
【施策実現のための各取組内容の進捗状況】				
① 将来需要の動向に即した水道料金制度の検討			目標を達成	
②経営基盤の強化			目標を達成	
③組織体制の強化			目標を達成	
④統合・広域化の検討			目標を達成	
⑤運営委員会の有効活用			目標を達成	
【各取組の実施状況】				
取組内容	①将来需要の動向に即した水道料金制度の検討 〔指標：目標を達成 2(67%)、概ね目標を達成 1(33%)〕		記載頁 58	（担当課） 企画財政課 施設課
取組の概要	最新の水需要予測等を財政収支に反映し、的確に将来予測を見込むことで安定した事業運営について検討を行います。			
当年度取組目標	【将来における水需要の動向について】 ・ 最新の実績値により分析を行い現状把握に努めます。 【今後の水道料金について（高料金化の抑制）】 ・ 最新の水需要予測により現状を把握し、財政収支見通しを検討します。 〔後掲〕 ・ 統合・広域化の検討 九十九里地域の末端給水事業体が統合・広域化することで経営の安定化が図られるか検討を行います。 （本籍：P24 取組内容④統合・広域化の検討参照） （計画額 0千円 予算額 0千円 決算額 0千円）			

指 標	給水原価・供給単価	進捗状況
目 標 値	277.33円以下・232.73円以上	概ね目標を達成
実 績	278.61円・234.59円	
	(進捗状況の説明) 給水人口の減少に伴う有収水量の減少、物価高騰に伴う費用の増加により、給水原価は、目標値を1.28円上回ってしまい目標に届きませんでしたが、供給単価は、目標値を1.86円上回っており目標を達成していることから「概ね目標を達成」と評価しました。	
指 標	1箇月当たり家庭用料金：10m ³	進捗状況
目 標 値	2,079円	目標を達成
実 績	2,079円	
指 標	1箇月当たり家庭用料金：20m ³	進捗状況
目 標 値	4,306円	目標を達成
実 績	4,306円	
当年度実施状況	【将来における水需要の動向について】 ・委託により実施した水需要予測の内容について確認を行い現状把握に努めました。 【今後の水道料金について（高料金化の抑制）】 ・最新の実績値を反映し財政収支見通しを試算した結果、計画どおり内部留保資金を確保できる見込みとなり、計画期間において現行の水道料金水準を維持できる見通しです。	
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・給水人口の減少等により水道料金収入が減少している中、老朽化した施設の更新や災害に備えた耐震化対策などの費用は資材高騰の影響を受けて増加しており、益々厳しい財政状況になると考えています。このため、不足する財源の確保については、市町補助金や水道料金改定の時期について、構成市町と慎重に検討を進めてまいります。	

取組内容	②経営基盤の強化 〔指標:目標を達成 1(100%)〕	記載頁 60	(担当課) 業務課 施設課 企画財政課
取組の概要	アセットマネジメント手法も活用しつつ、中長期的な視点に立った効率的・効果的な水道施設の管理運営を行うことで、経営の健全化を図ってまいります。		
当年度取組目標	【適正な資産管理（アセットマネジメント）】 ・アセットマネジメント簡易支援ツールを使用し資産データの更新を行います。 【企業債残高の適正な管理と発行】 ・老朽化施設の更新事業等の進捗状況を的確に把握した上で、中長期の収支見通しを検証します。 【民間委託による業務の効率化】 ・民間委託の活用による更新業務の効率化を目指し、新たな業務委託について情報収集を行います。 【各システムの適正な管理及び効率的運用】 ・各システムのアップデート、メンテナンス及び必要な情報更新を遅滞なく行い、お客様へ正確な情報を提供します。 (計画額 411,254 千円 予算額 360,168 千円 決算額 247,126 千円)		
指 標	アセットマネジメント管理	進捗状況	
目 標 値	適正な資産管理を実施	目標を達成	
実 績	更新計画との比較検討を実施		
当年度実施状況	【適正な資産管理（アセットマネジメント）】 ・アセットマネジメントの試算結果と更新計画の比較検討を行いました。 【企業債残高の適正な管理と発行】 ・最新の財政収支見通しにおける将来の経営状況を考慮した上で、国庫補助事業の財源として企業債を借入れました。 【民間委託による業務の効率化】 ・民間委託の活用による業務の効率化の方法について、セミナーや新聞等による情報収集を行いました。 【各システムの適正な管理及び効率的運用】 ・各システムについて適正にアップデート、メンテナンス及び情報更新を行い、お客様へ正確な情報を提供しました。		

要因・課題 対応策	[今後の方針] ・将来の施設更新事業量を把握し、経営状況を考慮した上で、適正に企業債を発行してまいります。		
取組内容	③組織体制の強化 [指標:目標を達成 1(100%)]	記載頁 61	(担当課) 総務課
取組の概要	人的資源の最適化を追求し、定員及び組織を見直すことにより、水道事業の運営基盤の強化を図っていきます。		
当年度取組目標	【定員・組織の見直しによる運営基盤の強化】 ・新規採用並びに派遣・再任用・臨時的任用により、業務継続に必要な職員数を確保します。 (計画額 410,849 千円 予算額 392,142 千円 決算額 387,025 千円)		
指 標	職員数	進捗状況	
目 標 値	58 名	目標を達成	
実 績	58 名		
当年度実施状況	【定員・組織の見直しによる運営基盤の強化】 ・令和5年度の採用試験に当たり学校訪問や職場見学会等の PR 活動を実施し、令和6年度の新規採用職員を予定どおり3名採用しました。また、令和5年度の予定外の退職者3名による不足を賄うため、臨時的任用職員3名を採用し、必要な職員を確保しました。		
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・新規採用職員の確保に向け、引き続き積極的な PR 活動を実施します。また、派遣・臨時的任用により業務継続に必要な人員を確保します。		

取組内容	④統合・広域化の検討 〔指標:概ね目標を達成 1(100%)〕	記載頁 62	(担当課) 企画財政課
取組の概要	九十九里地域の末端給水事業体が統合・広域化することで経営の健全化が図れるか検討を行ってまいります。		
当年度取組目標	【近隣水道事業体との統合・広域化の検討】 ・県が進めている用水供給事業体の統合・広域化に係るリーディングケースの協議状況を注視しながら、引き続き、九十九里地域の末端給水事業体の統合・広域化について検討を行います。 ・令和5年度時点で取りまとめた「基本計画（素案）」に、令和6年度に用水供給側の統合協議会から示される用水供給単価を反映し修正します。 ・市町村が主体となる統合協議会を設置して、末端給水事業体の統合に係る協議検討を進めることについて関係13市町村に意向確認を実施します。 (計画額 11,418 千円 予算額 2,739 千円 決算額 2,739 千円) (うち山武水道負担決算額 913 千円)		
指 標	統合・広域化に向けての検討	進捗状況	
目 標 値	基本計画（素案）の作成	目標を達成	
実 績	基本計画（素案）の作成		
当年度実施状況	【近隣水道事業体との統合・広域化の検討】 ・用水供給側の統合協議会から示された用水供給単価を「基本計画（素案）」に反映し、修正を行いました。また、意向確認を行うため、概要版を使用して構成5市町に説明を行いました。 ・統合協議会の設置について関係13市町村に意向確認を実施しました。		
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・意向確認の結果、統合協議会の設置は見送られることとなりました。今後は、市町村の意見等を確認し、広域化の方向性について引き続き協議していきます。		

取組内容	⑤運営委員会の有効活用 〔指標:目標を達成 1(100%)〕	記載頁 62	(担当課) 企画財政課
取組の概要	運営委員会を開催し、委員である有識者や水道利用者などの意見や助言を事業運営に反映します。		
当年度取組目標	【運営委員会の有効活用】 ・水道事業の各種計画の進捗状況や評価等を運営委員会に諮り、委員である有識者や水道利用者などの意見や助言を事業運営に反映させていきます。 (計画額 50 千円 予算額 100 千円 決算額 50 千円)		
指 標	運営委員会の開催	進捗状況	
目 標 値	年 1 回の開催	目標を達成	
実 績	年 1 回の開催(令和 7 年 1 月 28 日開催)		
当年度実施状況	【運営委員会の有効活用】 ・議 題 (1)令和 5 年度「中長期経営プラン 2016」の進捗状況について(審議) ※「事業の進捗状況は適当」と認められましたので、その結果をホームページで公表しました。 (2)「(仮称) 中長期経営プラン 2026」の検討状況について(報告) (3)県内水道の統合・広域化について(報告)		
要因・課題 対応策	〔今後の方針〕 ・引き続き運営委員会を開催し、委員である有識者や水道利用者から意見や助言を頂き事業運営に反映します。		

令和 6 年度評価調書（施策）

計 画 目 標	供給体制の持続性の確保【持続】	整理番号	3－（6）
施 策	活力ある人材・組織づくり	記 載 頁	6 3
施策の目的	専門知識と高い技術力を持つ職員を確保・育成することで、水道事業を持続するために必要な危機管理能力や職務遂行能力の維持・向上に努めてまいります。		
【施策の進捗状況の判定】			
進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている			
目標を達成した取組数	概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
1	—	—	
【施策実現のための各取組内容の進捗状況】			
①人材育成と技術の継承		目標を達成	
【各取組の実施状況】			
取組内容	① 人材育成と技術の継承 〔指標：目標を達成5（100％）〕	記載頁 63	（担当課） 総務課
取組の概要	水道事業に必要な専門的知識の習得及び職員資質の向上を図るため、積極的に研修会に職員を派遣します。また、熟練職員の持つ高い技術力等を若手職員に継承し、人材育成に努めます。		
当年度取組目標	【職員の研修等による人材育成】 ・水道事業に必要な専門的知識の習得及び職員の資質向上を図るため、オンライン研修や動画配信（eラーニング）も活用しながら職員に各種研修を受講させます。 【技術の継承による人材育成】 ・熟練職員から若手職員への専門的知識等の継承を図ります。		
(計画額 815 千円 予算額 393 千円 決算額 391 千円)			

指 標	職員資格取得度	進捗状況
目 標 値	1. 5 0 件／人	目標を達成
実 績	1. 8 2 件／人	
指 標	外部研修時間	進捗状況
目 標 値	6. 7 時間	目標を達成
実 績	1 2. 4 時間	
指 標	内部研修時間	進捗状況
目 標 値	1. 5 時間	目標を達成
実 績	2. 3 時間	
指 標	技術職員率	進捗状況
目 標 値	5 3. 7 %	目標を達成
実 績	5 4. 5 %	
指 標	水道業務平均経験年数	進捗状況
目 標 値	1 5. 2 年／人	目標を達成
実 績	1 6. 0 年／人	
当年度実施状況	【職員の研修等による人材育成】 ・職員を外部研修に派遣するとともに、オンライン研修や動画配信（eラーニング）を活用し、水道事業に必要な専門的知識の習得や公務員としての資質の向上を図りました。 ・内部研修については、「九十九里地域末端給水事業体統合広域化に係る検討状況について」、「工事検査員内部講習会」及び「給水タンク組立研修」を実施しました。 【技術の継承による人材育成】 ・日常業務において熟練職員から若手職員への技術継承に努めるとともに、職場の安全衛生管理に必要な知識取得に係る講習会に職員を派遣しました。	
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・引き続き研修や熟練職員から若手職員への技術継承などを通して職員一人一人の能力向上を図ります。	

令和6年度評価調書（施策）

計 画 目 標	供給体制の持続性の確保【持続】	整理番号	3－（7）
施 策	環境に配慮した事業運営の推進	記 載 頁	64
施策の目的	省エネルギー対策を促進することで、環境負荷の低減に努めます。		
【施策の進捗状況の判定】			
進展している・概ね進展している・一部の進展にとどまっている			
目標を達成した取組数	概ね目標を達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
1	—	—	
【施策実現のための各取組内容の進捗状況】			
①省エネルギーと環境保全対策		目標を達成	
【各取組の実施状況】			
取組内容	①省エネルギーと環境保全対策 〔指標：目標を達成 2(100%)〕	記載頁 64	（担当課） 総務課 施設課
取組の概要	配水方法や配水管工事等の工法を創意工夫することにより、省エネルギー化及び建設副産物の減量化を図り、環境負荷を低減していきます。		
当年度取組目標	【配水施設における対策】 - 省エネルギーを推進して経費の削減を目指し、電気設備更新の際には省エネルギー性能の高い機器を採用することによる、省エネルギー化を進めていきます。 【建設副産物の減量化】 - 浅層埋設工法の適用により、工事で発生する土砂の減少を図るとともに、建設機械から発生する CO₂ 発生量を削減します。 【事務局庁舎における対策】 - デマンド監視装置の活用による契約最大消費電力の抑制などの省エネルギー対策を継続します。 - 古紙やシュレッダーゴミのリサイクルを推進します。 （計画額 0 千円 予算額 0 千円 決算額 0 千円）		

指 標	配水量 1 m ³ 当たり電力消費量	進捗状況
目 標 値	0. 0 5 kWh/m ³	目標を達成
実 績	0. 0 4 kWh/m ³	
指 標	配水量 1 m ³ 当たり消費エネルギー	進捗状況
目 標 値	0. 4 1 MJ/m ³	目標を達成
実 績	0. 3 5 MJ/m ³	
当年度実施状況	【配水施設における対策】 ・ 主な設備の省エネルギー化が終了したことから、電気設備の点検整備等を実施して効率的な設備運用を実施しました。 【建設副産物の減量化】 ・ 全ての発注工事において浅層埋設工法を適用し、掘削土量の縮減、建設機械の作業時間の短縮による CO₂ 排出量の削減をしました。 【事務局庁舎における対策】 ・ 事務局庁舎における省エネルギー対策として、デマンド監視装置により最大消費電力量の上昇を抑制しました。 また、休憩時間等の消灯、ノー残業デー及びクールビズの実施により節電に取り組みました。 ・ 古紙やシュレッダーゴミのリサイクルを推進しました。	
要因・課題 対応策	[今後の方針] ・ 浅層埋設工法の継続及び他企業等との共同施工を積極的に行い、CO₂の削減に努めます。 ・ 引き続き、デマンド監視装置により環境負荷の低減を図ります。	